

風に乗り盆地の空を散歩

南九州ハンググライダー大会

優雅な飛行で観客を楽しませる南九州ハンググライダー大会が11月6日、金御岳周辺で行われました。今年も九州各地から愛好家ら22人が出場。参加者らは離陸台から風に乗って飛び立ち、約1.5キロ離れた着地点にどれだけ正確に着陸できるかを競いました。また、山頂の観客らは眼下の景色を眺めたり、飛び立つ瞬間をカメラに収めたりして空の祭典を楽しみました。今季初出場の大森由総よしむねさん（福岡市）は「祭りの盛り上がりはほかにない。雲海もきれいだ」と自然を満喫していました。



政治をより身近なものに

第3回女性議会

女性の視点から市政への意見を述べる女性議会が11月15日、市議会本会議場で開催されました。一般公募と推薦で選ばれた市内の女性6人が登壇。子宮頸がんワクチン接種の実施や食物アレルギー疾患を持つ子どもたちの給食などについて、次々と質問しました。南九州大学と地域との関わりや民生委員・児童委員の活動について質問した松尾伊津子いづなさん（広原町）は「活動する自分たちの思いを話すことができたい。これからも夢を持って活動していきたい」と今後の活動に意欲を見せていました。



温かな光と音の調べに包まれて

プラザイルミネーション2011

温かな光で中心市街地を華やかに彩るプラザイルミネーションの点灯式が11月19日、ウエルネス交流プラザで行われました。今年も、消費電力を抑えるためLEDを増やしたり、点灯時間を1時間短縮したりするなど、エコにも配慮。訪れた人たちは、ペットボトルを使ったクリスマスツリーを眺めたり、ハンドベルのコンサートに聞き入ったりしていました。海老原めぐみめぐみさん（蔵原町）は「光と音が調和していて、別世界にきた感じがします」と一足早いクリスマス気分を満喫していました。



趣向を凝らした自慢のがねずらり

G1グランプリ環霧島決勝大会

郷土料理「がね」の味を競うG1グランプリ環霧島決勝大会が11月20日、滝の駅せきのおで開催されました。同大会は、霧島連山が日本ジオパーク認定を受けたことを記念して開催されたもので、本市をはじめ小林市や霧島市、曾於市から8チームが参加。訪れた来場者らは独自の材料や味付けなどで趣向を凝らした「がね」に舌鼓を打っていました。友人の応援にきた竹永和代わかしほさん（志布志市）は「どのチームもおいしいですが、やっぱり友達が作るのが一番です」と話していました。



新燃岳噴火災害に備え防災訓練

都城市合同防災訓練

市民や関係機関が参加した合同防災訓練が11月27日、折田代農村広場で行われました。地震や土石流に加え、新燃岳の噴火災害を想定した初の訓練。特設のテントでは応急救護訓練が行われ、三角巾を使った手当ての訓練に西岳地区の住民らが参加しました。また、警察官や自衛隊員らが、土砂に埋まった車や倒壊した家屋から被災者を救出する訓練を手際よく行いました。炊き出し訓練に参加した高野マキ子さん(吉之元町)は「油断は禁物。再噴火に備えます」と気を引き締めていました。

大事な人と過ごすひととき

ドライブインシアターinかかし村

ドライブインシアターinかかし村が12月3日、山田第2運動場で開催されました。車のFMラジオから流れる音声を聞きながら、車中で映画を鑑賞できるとあって、家族連れやカップルに人気のこの企画。会場には約160台、約500人が訪れ、大スクリーンで人気アニメ「ワンピース」など2作品を見たり、映画の合間に行われる抽選会を楽しんだりしていました。実行委員長の大村正和さんは「口蹄疫で開催できなかった昨年。この企画でまちが元気になって欲しい」と復興を願っていました。

力作ずらり山之口の文化祭

生きがいふれあいフェスタ山之口

生きがいふれあいフェスタ山之口が12月4日、山之口勤労福祉センターを中心に開催されました。会場には和紙ちぎり絵や書道など地域住民による力作がずらりと並び、来場者の目を楽しませていました。そのほか、麓小学校人形サークルの子どもたちが、人形浄瑠璃を披露。今回は物語を進行する義太夫役にも児童が初めて挑戦しました。義太夫役を務めた山下帝臣^{たみしん}くん^{たみしん}と大田健太郎くんは「多くの人に見てもらえてよかったです。3月の定期公演のいい準備ができました」と満足そうに話していました。

免許皆伝！年越しそば打ち教室

庄内新そばまつり

庄内町のもちなが邸周辺で12月11日、庄内新そば祭りが開催されました。庄内町で、そばの産地づくりの取り組みが始められてから8年目の今年。会場は、そば粉や手打ちそばなどを求めてたくさんの人でにぎわいました。また、年越しそば打ち教室には、定員を上回る申し込みがあり、参加者らは、収穫したばかりのそば粉を使って、そば打ちを楽しみました。松本礼那^{れな}さん(郡元町)は「生地の硬さや水の加減を学ぶことができた。家でもそば打ちにチャレンジしたい」と自信を深めていました。





宮ノ下さんと3年生の
バレーボール部員

人の風景

熱意・創意・誠意

宮崎県立都城商業高校女子バレーボール部顧問

宮ノ下 雄司さん

昨年の11月3日、2年ぶり5回
目の全日本高校バレーボール
宮崎県大会の優勝を決め、1月5
日から開催される全国大会（春校
バレー）での活躍が期待される宮
崎県立都城商業高校女子バレーボ
ール部（部員数23人）。その顧問を
務めるのが宮ノ下雄司さん（南鷹
尾町・51歳）です。

宮ノ下さんは、教師歴24年。都
城商業高校に赴任して以来15年間、
教師として、また女子バレーボー
ル部の熱血監督として、生徒と保
護者からの信頼を集めています。

元々は、中学校の保健体育の教
師として採用された宮ノ下さん。
中学生の時からバレーボールを始
め、選手としては出場の夢を果た
せなかった春校バレーに、監督と
して出場したいとの思いから、高
校の体育教師の採用試験を受験し
直し、現在に至ります。

宮ノ下さんのこの10年間の生活
は、学校や自身が管理運営する女
子バレーボール部の寮と自宅を慌
ただしく行き来するハードな毎日。
そのため、「妻と二人の子どもの理
解と協力がなければ、とても続け
ることはできなかった」と家族へ
の感謝の気持ちも忘れません。

宮ノ下さんが、自分にもまた選
手に対しても、厳しい姿勢で練習
に臨む理由は、「選手たちに勝利の
喜びを味わって欲しい」との思い
とともに、苦しい練習に耐えた3
年間の経験を、卒業後の心の支え
にして欲しいとの願いからです。

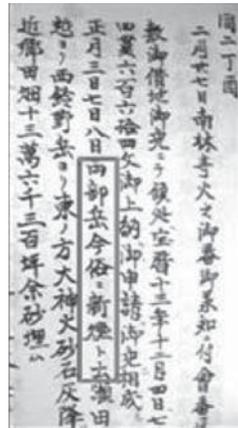
宮ノ下さんが掲げる守備力が特
徴のチームで臨む春校バレーの目
標は、やはり「ベスト8」。ユニフ
ォームにあしらった桜が開花する
よう、今日も厳しい表情で選手た
ちと向き合います。

※この記事の内容は、12月に取材したものです

ジオパーク発掘調査隊



霧島ジオパーク
Kirishima Geopark



火山活動が活発になっていて新燃岳の起源と、最大といわれている享保の噴火に関する記録について紹介します。

◎問い合わせ
経営戦略課 電話 23-2115

新燃岳の形成は約1万7千年前の韓国岳の形成と前後しており、1万5千年前には火山体が完成していたと考えられています。

その後、歴史時代以前の数度の噴火を除くと数千年は火山活動が穏やかで、火山活動の再開は江戸時代であり、残されている記録の中で最大の噴火が1716年(1717年の享保時代の噴火です。

都城島津家史料の「年代実録」では「両部岳の噴火を機に『新燃』と呼ぶ」という記録が残され、この噴火を機に「新燃」と呼ぶようになったことが確認できます。

「両部岳」の噴火を機に「新燃」と呼ぶという記録は享保期の噴火が新燃岳であることが分かります。
『年代実録』(都城島津家史料)

また、藩が編さんした「年代記」や「古今山之口記録」などから、この噴火によりけが人33人、消失した家屋604軒、死んだ牛馬405頭、田畑の損害6,240町などの被害を受けたことや、現在はない国分松永川から土石流が発生したこと、あるいは、1717年正月以降に特に大きな被害を受けた高原や高崎の住民が都城市や三股町、小林市に避難し、全員が戻ったのは2年後の1719年であったことなどが確認できます。
復旧作業についても、降灰除去の作業従事者に藩から「夫飯(手当)」を支給されたことが記録に残されています。

曾於市の「大川原峽」と曾於市で一番高い「白鹿岳」を紹介します。

◎問い合わせ
曾於市財部支所産業振興課
電話 0986-72-0938

九州新幹線が全線開業し、日豊本線が通る曾於市は大隅半島の北の玄関口としての役割が高まってきている地域です。

その大隅大川原峽から下流部3キロにわたる大川原峽は、大川原峽キャンプ場をはじめ、悠久の森、曾於八景の一つである桐原の滝や三連轟の滝など自然に恵まれた地域です。大川原峽の河川に見られる溶結凝灰岩は、約34万年前の加久藤火砕流によりできたものです。自然に洗掘された造形美が見られる大小の滝と甌穴、水遊びや魚釣りができる穴場がたくさんあり、自然体験ができる憩いの場所となっています。

また、本市で一番高い白鹿岳は、百武彗星が発見されたことでも有名です。白鹿岳は、北に霧島山、南西に桜島と錦江湾、鹿児島市が

ほくの名前はキリッ子だよ!



一望できる所でもあることから、フォレストアムニティ整備事業を活用し、平成12年度から平成13年度にかけて、展望台、天体観測デッキなどを設置した白鹿岳森林公園を整備しました。

同公園は大パノラマが望めることから来場者も多く今後の利活用が期待されます。